

【テーマ】

「オンラインストレージの活用について知る」

【主催】事務システム分科会

活動報告

日 時：2025年7月10日（木）15:00 -17:30

場 所：株式会社Box Japan + オンライン配信（Webex）（ハイブリッド開催）

出席者：74名

1. 研究内容

今年度初となる事務システム分科会がBox Japanオフィスとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。今回は、Box Japanよりコンテンツ管理プラットフォーム「Box」の活用法について講演がありました。

Boxは、容量無制限、強固なセキュリティ、他サービスとの連携により、大学が抱えるデータ容量、セキュリティ、産学連携、法令対応、システム管理負荷の5つの課題を解決します。デモンストレーションでは、ブラウザでのファイル閲覧、アクセス履歴、バージョン管理、共同編集、電子サイン、ファイルリクエスト等の機能が紹介されました。また、Box AIにより、コンテンツの要約、Q&A、翻訳が可能になり、情報探索と理解の時間を大幅に短縮できることや、Box Hubsと連携したAI検索や、用途に特化したAIエージェント構築機能「Box AI Studio」も紹介され、BoxがAI活用を加速させる「信頼できる情報源」となることが強調されました。

参加者はグループディスカッションで各大学のデータ管理について情報交換し、オフィス見学も行われました。

2. スケジュール

15:00 分科会開始
○開会挨拶

○ご講演（60分）

「業務効率化に向けたコンテンツ管理活用術 - Boxをヒントに情報管理の未来をデザインする」

株式会社Box Japan プロダクトマーケティング部 エバンジェリスト 浅見 顕祐 様

株式会社Box Japan エンタープライズ営業部 荒 瑞貴 様

株式会社Box Japanエンタープライズ営業部 リードソリューションエンジニア 葵 健晴 様

16:00 ○休憩（10分）

16:10 ○グループディスカッション（40分）

16:50 ○各グループより全体共有（20分）

17:10 ○オフィス見学（20分）

17:30 ○閉会挨拶

「オンラインストレージの活用について知る」

2025年7月10日（木）、事務システム分科会が、株式会社Box Japan（東京都千代田区）オフィスとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。分科会は約半年ぶり、今年度は初めての開催となりました。

今回は、代表的なクラウドコンテンツ管理プラットフォームを提供する株式会社Box Japan様より、大学での導入事例やAI活用について、2部構成でお話しいただきました。芝浦工業大学高野氏（事務システム分科会運営委員）の司会で進行されました。

■ご講演：

「業務効率化に向けたコンテンツ管理活用術

－Boxをヒントに情報管理の未来をデザインする part1」

株式会社Box Japanエンタープライズ営業部 Enterprise Sales 荒 瑞貴 氏

株式会社Box Japanエンタープライズ営業部 リードソリューションエンジニア

葵 健晴 氏より

○大学が抱える5つの課題の解消をBoxが支援

Boxは2005年に創業し、2015年にニューヨークで上場したクラウドコンテンツ管理サービスを提供している企業です。グローバルで約12万社、日本国内では約2万社（日経225の77%）の導入実績があります。日本の従業員数は250名と多くはありませんが、100%パートナービジネスで、富士通Japan等のパートナー企業様と協力して事業を行っています。

- ・ 文部科学省：ファイルサーバーの代替および大学へのファイル配信に利用。
- ・ 東京理科大学：重要な研究データのセキュリティ対策と、産学連携で学外と共有するために活用。
- ・ 早稲田大学：約10年前にセキュリティ対策として導入し、現在は1ペタバイト以上のデータを運用。
- ・ 千葉大学：学内RDM（Research Data Management）と連携し、研究データのファイル管理に活用。ログデータ等の長期保有にも対応。

6月26日にはBox Japan大学ユーザー会が開催され、75の大学が参加しました。東京科学大学（旧東京工業大学）からは、システム統合とAI活用について事例が発表されました。

ここで、データ管理における大学が抱える5つの課題を考えてみましょう。

1. 容量不足：研究・講義データ、入試資料等の非構造化データの増加により、ファイルサーバーやSharePointの容量上限に達する可能性がある。
2. セキュリティ脅威：ランサムウェア、内部からの情報持ち出し、クラウドサービス上の機密データの管理不足による、情報漏洩リスクがある。
3. 産学・外部連携：学外連携時のシステムが部門ごとに異なり、共有管理が煩雑。
4. 法令対応：電子帳簿保存法等、文書の保存・破棄に関する法令への対応が困難。
5. システム管理負荷：DX推進によるシステム増加で、管理者の負担が増大。

Boxはこれらの課題に対し、「1か所へのコンテンツ集約」を強みとして解決策を提供します。Microsoft 365やGoogle Workspaceといった各種クラウドサービスとAPI連携し、Zoomの録画やkintoneの添付ファイル等も自動でBoxに集約可能です。またファイルを一元管理することで、Boxのアクセス権限やログ監視、情報漏洩アラートでセキュリティを強化できます。さらに、ファイルがBoxに集約されることで、検索やAIによる要約が容易になり、情報を探す手間が省け効率的です。

Boxで実現できること

多くのツールを削減し、働き方をシンプルに



Boxは、メール添付のPPAP（パスワード付きの添付ファイル）対策、既存ファイルサーバーの代替、研究データ管理、Teams連携、電子署名（Box Sign）、AI機能、スマートフォン対応等、多岐にわたる機能を提供し、場所を選ばない働き方や業務効率化、セキュリティ向上に貢献します。

デモンストレーションでは、Boxの具体的な機能が紹介されました。

- ブラウザでの資料閲覧: Word文書や動画ファイル、画像ファイル等様々な形式のファイルをブラウザから直接閲覧でき、PCだけでなくタブレットやスマートフォンでも確認が可能。
- アクセス履歴: ファイルに対して、いつ、誰が、どのような操作（閲覧、編集等）を行ったか詳細な履歴を確認できる。
- バージョン管理: ファイルの更新時に別名を付けて保存する必要がなく、同じファイル内でバージョン管理が可能。過去のバージョンにも簡単に戻せる。
- ファイル共有と共同編集: ファイルを瞬時に他のユーザーと共有でき、オンラインで共同編集が可能。アノテーション機能でファイル上にコメントを残し、特定のユーザーにメンションもできるため、メールでのやり取りなしにBox上でコミュニケーションを完結できる。
- 電子サイン (Box Sign): 契約書等に電子署名をリクエスト・実行できる機能。紙での押印が不要になり、業務の生産性向上に寄与する。
- ファイルリクエスト: 入学手続き書類等の受け取り時に、ノーコードで専用のウェブサイトを作成し、そこにファイルをアップロードしてもらうことで、指定のフォルダに自動的に格納される。

■ご講演:

「業務効率化に向けたコンテンツ管理活用術

－Boxをヒントに情報管理の未来をデザインする part2」

株式会社Box Japanプロダクトマーケティング部 エバンジェリスト 浅見 顕祐 氏

株式会社Box Japanエンタープライズ営業部 リードソリューションエンジニア

葵 健晴 氏より

○AIを活用したコンテンツ管理の未来

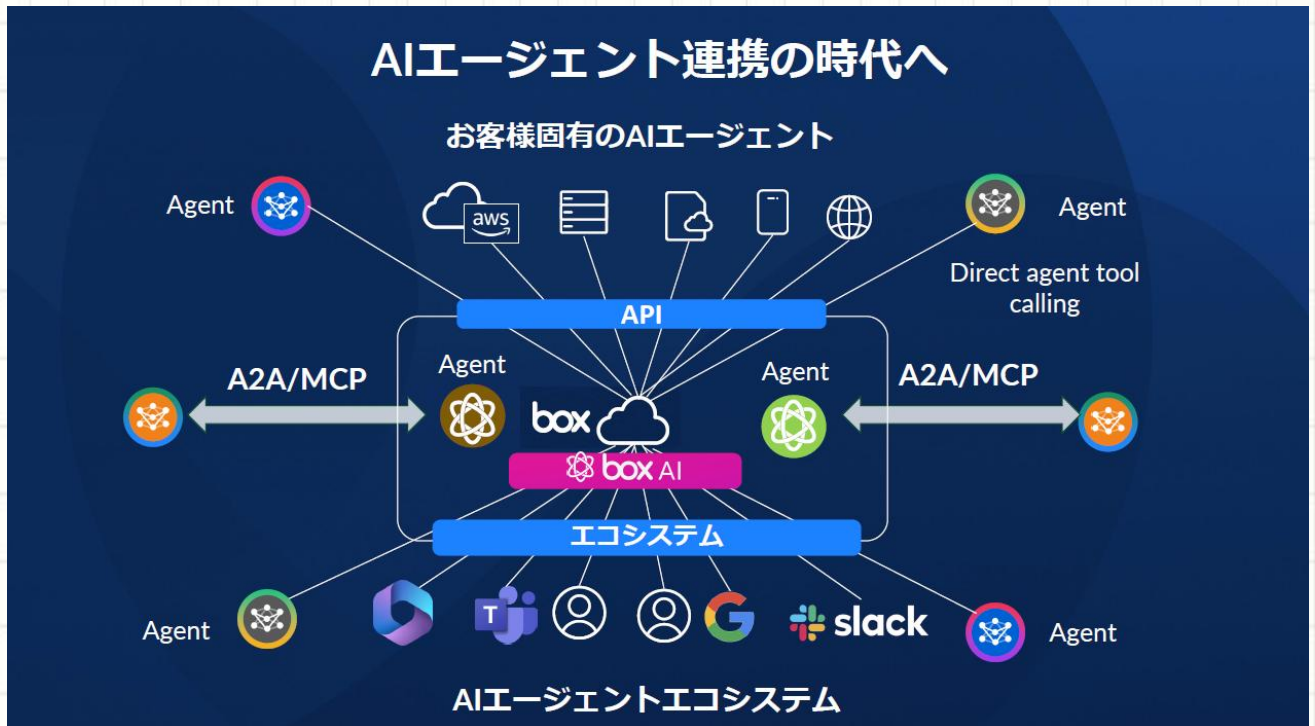
電子ファイルはこれまで使い捨てにされることが多かったですが、AIの登場により「価値あるナレッジ」へと変化しています。Boxはコンテンツの一元管理で「探す時間」を削減してきましたが、AIの登場により「理解する時間」も大幅に短縮されます。

Box AIは、Box内のコンテンツに対し、要約、Q&A、翻訳機能を提供し、インサイトの獲得を容易にします。例えば、AIを使えば100ページもの英語ドキュメントの要点や特定の意見を日本語で素早く把握できます。また、AIを壁打ち相手として活用し、研究報告書や自身の考えについて質問することで、有益な回答から次のアクションを引き出すことも可能です。

Box AIのデモンストレーションでは、以下の機能が紹介されました。

- **キーワード検索とAI要約:** Box内のファイル（例：科研費マニュアル）をキーワード（例：アルバイト）で検索し、AIに質問することで、支払い手続きの詳細や該当ページ数を即座に確認できる。要約機能を使えば、論文等の長文コンテンツの概要を素早く把握できる。
- **Box HubsによるポータルサイトとAIの連携:** 研究室の論文等を集約したポータルサイト「Box Hubs」上で、AIに質問することで、複数の文書を横断的に検索し、関連する回答と参照元ドキュメントを提示できる。これは、シラバスや講座内容の周知、学生からの問い合わせ対応にも活用できる。

AIエージェントの時代が到来しており、Boxもこのトレンドに対応しています。現在は、複数のAIエージェントが連携して高度な情報処理を行う「マルチAIエージェント」の時代であり、これは「ディープサーチ」や「ディプリサーチ」と呼ばれます。ディープサーチでは、人間からの指示を受けた中心のエージェントが、Box内を検索するエージェント等、各専門エージェントに質問を投げかけ、得られた情報をまとめて推論し、必要に応じて質問を繰り返すことで、精度の高い回答を提供します。Boxは、「Box AI for Documents」や「Box AI for Hubs」等、この2年間で様々なAI機能をリリースしてきました。また、新機能である「Box AI Studio」を使うことで、法務用エージェントやリサーチ業務用エージェント等、用途や業務に特化したAIエージェントをBox内に構築することが可能です。Box内にAIを置くことで、外部のAIがBoxの文書を探し回る必要がなくなり、中のAIが必要な情報を効率的に提供することができます。さらに、Boxはディープサーチ機能の自社開発を進めており、今年4月にリリースされた「Box Archive」機能が重要な役割を担います。Box Archiveは、古いデータや不要なデータをアーカイブ領域に移動させます。これらをAIの検索対象から除外し、常に新鮮で質の高いデータのみをAIが利用できるようにすることで、AIの精度向上に貢献します。Box Hubsのポータル画面も、AIが検索する対象を絞り込む上で重要です。また、コンテンツにメタデータを自動で付与する機能もリリースされ、AIが「承認済み」といったメタデータを自動で付与できるようになりました。これは、将来のAIエージェント時代を見据えた機能です。



Boxは、コンテンツ管理の課題に対し、「コンテンツを持つ独立したプラットフォームを真ん中に一つ作る」という全体最適の考え方を提案しています。AI活用を加速させる「信頼できる情報源」としてのコンテンツ管理が不可欠であり、Boxはそのための包括的なソリューションを提供します。

質疑応答では、Google Workspaceとの併用における正式文書の管理（フォルダ分けによる運用）、PDF化のプロセス、Microsoft Copilotとの連携等について言及されました。

■ グループディスカッション・施設見学：

グループディスカッションでは、各大学のファイルサーバーやデータ管理について紹介があったり、Box Japanの方にBoxの機能について質問したりしました。その後、現地参加の方のみ、20分ほどかけてオフィス内を見学させていただきました。

4. 参加校 [26校40名] ・参加企業[8社16名] ・参加総数[74名]

亜細亜大学 [2]	大東文化大学 [1]	文京学院大学 [1]	アシアル株式会社 [1]
大阪産業大学 [1]	千葉工業大学 [1]	宮崎大学 [1]	京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社[2]
関西国際大学 [1]	中京大学 [2]	立正大学 [4]	クラスメッド株式会社 [1]
共立女子大学 [2]	津田塾大学[1]		チエル株式会社 [1]
産業能率大学 [3]	東海大学 [2]		東京コンピュータサービス株式会社 [1]
芝浦工業大学 [1]	東京都市大学 [2]		富士電機ITソリューション株式会社 [5]
上智大学 [2]	東京農業大学 [1]		Box Japan株式会社 [3]
城西大学 [1]	東京農工大学 [1]		有限会社ハーティサービス [1]
成蹊大学 [4]	東京理科大学 [1]		富士通Japan株式会社 [18]
清泉女子大学 [1]	東洋学園大学 [2]		
摂南大学[1]	東洋大学 [1]		

5. 所感（事務システム分科会運営委員会）

今回の事務システム分科会では、「**オンラインストレージの活用について知る**」というテーマで、Box Japan様のご講演とグループディスカッション等を通じて理解を深めることができました。

ご講演では多くの企業や大学で導入実績のある知見から、コンテンツ管理の課題やリスクから、AIを活用することで価値あるナレッジへ最適化していくことの重要性まで、踏み込んだ話をお聞きすることができ、今後のコンテンツ管理のあるべき姿について考えるきっかけになりました。

グループディスカッションでは、各大学の現状と課題を共有し合いました。話し合ってみると、同様の悩みを抱えていることも多く、このような機会では情報を共有し、自大学で活かそうなことを積極的に持ち帰れるようにしたいと改めて感じました。

オフィス見学では、風通しのよい企業風土を感じる点が多く、働きやすいオフィス実現の為に工夫に刺激を受けました。

最後に、今分科会を開催するにあたりご協力いただいたBox Japanの皆さまに、この場を借りて深く感謝申し上げます。

【 分 科 会 の 様 子 】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。
また、今回の分科会開催に際し事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

◆「CS研・IS研情報交換サイト」について

CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様が情報交換をする会員専用のサイトです。

（サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

※利用アカウント申し込みサイトURL：<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/102857>

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

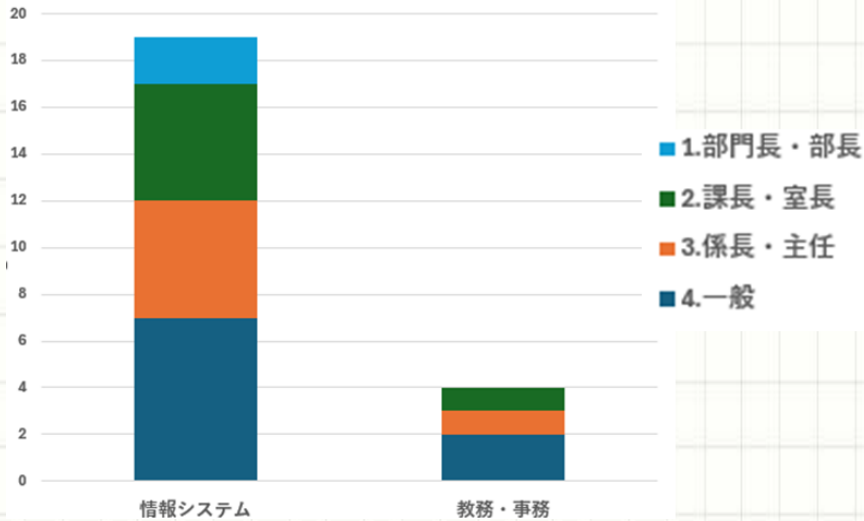
〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー

富士通Japan株式会社 ビジネス変革室内

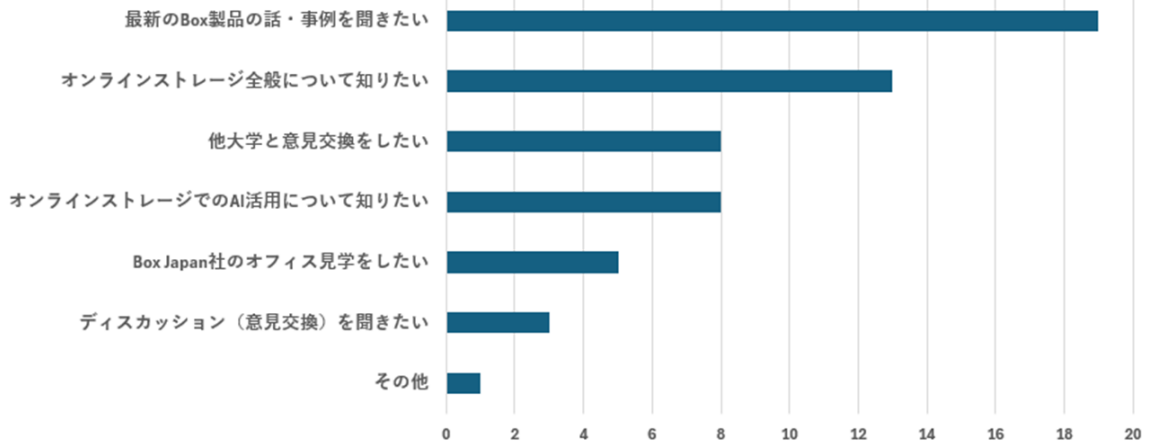
E-mail：contact-csiken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：23／40（大学関係者のみ）】

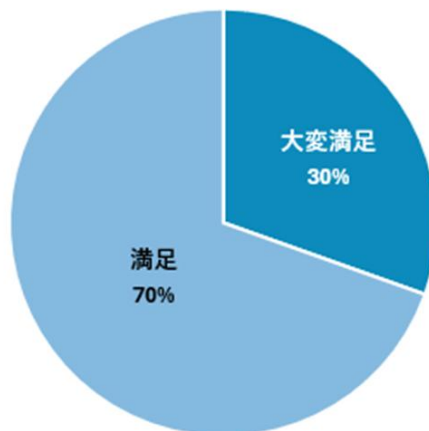
■ 担当業務と役職について



■ 参加した目的について



■ 本日の分科会の全体満足度について



■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

【製品・機能への理解促進と活用イメージの具体化】

- Boxの話は過去にも聞いた事があったが、最新のサービス情報などアップデートされている情報もあり、ためになったため。
- BOXの導入を検討しているため、BOXの機能について知ることができて良かった。
- BOXAIについては初めて聞いたが、今後の業務効率化や情報整理の観点から、活用の可能性を感じる内容であった。
- AIや他システム連携の機能を把握できた
- もう1歩踏み込んだストレージの活用事例を聞くことができたため。
- 新たな機能を知ることができた
- 単なるストレージではないBoxの利活用の方法について、知見をいただきました。
- Boxのいろいろな使い方を学ぶことができた。
- AIを利用する視点が自分にとっては新しく、今後の導入等のメリットとしてアナウンスしていきやすいと感じたため。

【議論・交流による深い学びと課題解決の示唆】

- Box社員と話す場面があり、良かった。ディスカッションの時間が確保されて良かった。
- 他大学の状況も少し知れたため。
- 意見交換会では、Box社への突っ込んだ質問や、管理者目線で気になっている点が確認できたのでよかったと感じます。
- コンテンツ管理にAIを活用することで、これまで個人に紐付いていた知見を事務業務の中で簡単に共有、活用出来るようになる点は非常に有用だと感じた一方で、部署間での情報共有についての制御をどのように考えるかは難しいと感じた（機密性、可用性）。

【その他】

- 別の会議が15:30よりあったため、最初の30分のみ参加しました。
- 内容については満足であったが、オンラインでのディスカッション参加ができればなおよかった。また、休憩時間が短く時間配分がタイトすぎる印象があった。
- box見学できたのがよかった

■今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

- 今回のテーマはとても興味のあるトレンドな話題だと思います。テーマとしては、以下に興味があります。
 - ・スマートフォン専用の大学ポータルアプリ
 - ・出席管理の現状と今後
- 生成AIの教育での活用方法。LMSなどのデータ分析系のハンズオン。
- デジタル学生証の導入
- 大学におけるAIの導入・活用事例

■CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 今回、グループ討議の時間があまり取れなかったので、もう1時間早く開催してはどうでしょうか？2時間そこそこだと少し短いです。
- 情報交換会（懇親会）の参加メンバーが決まってきてしまっているように思う。新たな方にも参加しやすいような形にしたい。情報交換の会なので、何かテーマのようなものを設け、募集の時に記載しておく？費用を少し下げる？講演者の方（企業・学校）にも参加いただく？何が良いか今時点では分からないのですが、手を打ちたいと思いました。
- オンラインでも参加できるハイブリッド形式は業務により大学を離れられない場合も並行して参加できるため、今後も継続していただければ幸いです。
- 様々工夫していただいているので、興味に従って参加させていただいています。大変ありがたく感謝しております。
- あまり現地参加することがなかったがBox社のオフィス見学でいたのはよかった
- 本日はありがとうございました。いろいろと参考になりました。